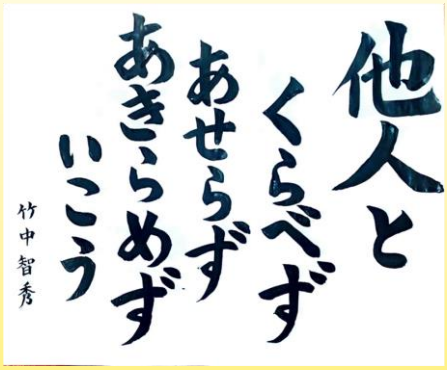
今月のことば



私が学生時代にお世話になった京都専修学院の元院長、竹中智秀先生の言葉です。
私たちは無意識に他人と比べて焦ったり、諦めたりしてしまうけれど、あなたはあなたでいいんだ、と背中を押してくれる気がします。

境内の花々

シャクヤク

INFORMATION

7　月　公　開　同　朋　会

7月8日（第二土曜日）
13：00～15：30

① 勤行
② 住職・前住職法話
③ エレクトーン奏者
sono　ミニコンサート
④ 茶話会

毎年7月に開催している公開同朋会。
今年はご門徒さんのご紹介でエレクトーン奏者sono さんをお招きして、ミニコンサートを行います。誰もが一度は耳にしたことがある曲や懐かしのメロディーなど、エレクトーン一台で多彩な音楽が繰り広げられます。ぜひお越しください。

五月同朋会より

住職法話「生まれた意味と生きる喜び」

阿弥陀はインドの言葉で「アミターユス（無量寿）」と「アミターバ（無量光）」という意味です。無量寿は時間的に限りがないこと、無量光は空間的に限りがないことを表し「いつでも、どんな人も必ず救う」という仏様の願い（本願）を表しています。先日、国立京都博物館で親鸞聖人の直筆の書を見てきました。親鸞聖人は書かれた文章の周りに説明書きを多く書き入れていますが「人間」という言葉の説明に「ヒトトウマルルヲイフ」（人と生まるるを言ふ）と書いています。これは関係性を生きるものとして生まれた、ということでしょう。例えて言えば、こどもが生まれたことで親としての自分が生まれるということです。必ず救うと願われた身を生きる私が、人として生きる意味とは、生きる喜びとは、周りの人との関係性の中で見つけていくものなのでしょう。

前住職法話「信心とは」

多賀城にある東北歴史博物館に行ってきました。奈良時代からの貴重な仏像が多く展示され興味深く拝見しましたが、中に十一面観音や千手観音がありました。これはどこからも見守ってほしい、どこにでも手を伸ばしてほしいという人間の欲求から生まれた観音様ではないでしょうか。私の方は変わらないで私の足りないものを補ってほしいと願う心がご利益のある仏を創り出す、ということがあるのだと思います。真宗では信心を「如来より賜りたる信心」と言います。これは私たちが仏さまを信じるのではなくて仏を信じる心を仏から賜る、我が身に賜った信心は如来の心だということです。自我いっぱいの私は本当の私の願いに気づくことが難しい。仏の教えに出あって、私の生き方をたずねたとき「自我いっぱいの私であった」と気づき自然に頭が下がる、そのことを信心というのです。

六月同朋会

六月十日（第二土曜日）

時　午後一時から三時半
内　容　勤行・法話・茶話会
お茶代　５００円

ぼうもりのひとりごと

慶讃法要期間中、２度も本山にお手伝いに行く機会をいただきました。全国から集まってきた子どもたちと遊んだり、関西在住の徳泉寺のご門徒さんとお会いしたりと嬉しいご縁をいただきました。